

『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前文

令和8年度の共通テストでは、歴史科目は、「歴史総合」『歴史総合，日本史探究』『歴史総合，世界史探究』の2科目・1出題範囲が用意された。そのうち、「歴史総合」は第1問，第2問の二つが出題され，それぞれが，『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』との共通問題となっている。今年度は，「歴史総合」の第1問が『歴史総合，世界史探究』の，第2問が『歴史総合，日本史探究』の，それぞれ第1問となった。

また，「歴史総合」の追・再試験においては，本試験の前文で言及した受験者数や平均点等についての分析は避け，出題方針，内容及び難易度等について考察する。なお，評価に当たっては，報告書（本試験）15ページに記載の8項目の観点により，総合的に検討を行った。

2 内容・範囲

(1) 評価の観点

設問形式	令和8年度	
	年度・出題数	出題数 (出題率)
主に知識・技能を評価するもの	11	(68.8 %)
主に思考・判断を評価するもの	5	(31.3 %)
合計 (うち概念的理解)	16 3	(100.0 %) (18.8 %)

(2) 分野別の出題数・出題率

分野	令和8年度	
	年度・出題数	出題数 (出題率)
政治史	9	(56.3 %)
社会経済史	3	(18.8 %)
文化史	0	(0.0 %)
複数分野に関わる	4	(25.0 %)
合計	16	(100.0 %)

*知識・技能を評価する問題と思考・判断を評価する問題の分類は，当外部評価分科会の判断による。

(3) 地域別の出題数・出題率

地域	令和8年度	
	年度・出題数	出題数 (出題率)
東アジア (日本を含む)	4	(25.0 %)
その他アジア	0	(0.0 %)
西アジア・アフリカ	1	(6.3 %)
西欧・北米	2	(12.5 %)
東欧・ロシア	0	(0.0 %)
その他地域	0	(0.0 %)
複数地域に関わる	9	(56.3 %)
合計	16	(100.0 %)

(4) テーマ別の出題数・出題率

テーマ	令和8年度	
	年度・出題数	出題数 (出題率)
近代化	6	(37.5 %)
大衆化と国際社会の変容	5	(31.3 %)
グローバル化	3	(18.8 %)
その他テーマ	0	(0.0 %)
複数テーマに関わる	2	(12.5 %)
合計	16	(100.0 %)

第1問 「人々にとっての様々な戦争経験」という主題について

問1 会話文中の空欄「ア」に入る人名と空欄「イ」に入る文との組合せとして正しいものを選択する問題。知識・技能を問う問題。西欧におけるナショナリズムの高揚の中で，フランスとドイツの事例を素材に徴兵制が国民統合の装置として果たした役割についての構造的理解を促す，国民国家の概念的理解を問う良問。

問2 会話文を参考にしつつ，資料1・2から読み取れる事柄やその背景に関して述べた文について，正しいものの組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。日本の明治維新における，

旧来の武士・士族による軍隊から国民皆兵による近代的な軍隊への移行について、既有知識を基に会話文と資料を丁寧に読み取ることで正答に至る。

問3 ノート中の空欄「ウ」に入る語句と空欄「エ」に入る文との組合せについて、正しいものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。第一次世界大戦期のフランスにおけるセネガル人国会議員の事例を糸口として、本国側と植民地側とが兵力不足と協力の対価としての政治的権利の獲得という相互的な関係となっていることを多面的・多角的に考察させる。総力戦体制が副次的に植民地住民の政治的地位向上をもたらしたという、「大衆化」についての高次の概念的理解につながる良問。

問4 甲午農民戦争の性格と、それと同様の性格を持つと考えられる他の事例と、その事例が起こった地図中のおおよその地域について、最も適当なものの組合せを選択する問題。戦争の性格を類型化した思考力・判断力・表現力等を問う問題。地図上の地域の示す範囲については、改善の余地がある。

問5 パネル中の空欄「オ」に入る文あ・いと、風刺画が描くチャーチルの考えX・Yとについて、最も適当なものの組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。第二次世界大戦後の国際秩序の設計図としての大西洋憲章の理念とともに、アメリカ合衆国の黒人新聞の視点から白人中心主義の実態を批判的に読み取ることで、大西洋憲章の理念と実態についての概念的理解を促す問題。画像資料に吹き出しを加えることで理解を促す工夫が見られる。

問6 資料4とグラフから読み取れる事柄やその背景について述べた文として、最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う問題。女性の社会進出という視点から総力戦の概念的理解を求めているが、資料の読み取りや事実に知識を問う問題となっているため、興味深い資料やグラフが生かし切れていない。戦後の女性の社会進出についての日米比較といった、社会構造の変容や持続について考察させるものにするなど、設問の工夫によって資料をより生かせる可能性がある。

問7 メモI～IIIに書かれている出来事について、古いものから年代順に正しく配列したものを選択する問題。知識・技能を問う問題。国家の正規軍以外の主体に焦点を当て、グローバル化における戦争の主体の多様化を問う意図があると思われるが、単なる時期の並べ替えとなっていることが惜しまれる。

問8 課題あ・いと、それぞれの課題を考察するための学習活動に用いる資料として最も適当なものW～Zとについて、組合せとして正しいものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。歴史総合の最後の単元である「現代的な諸課題の形成と展望」を踏まえ、探究の過程を示している。

第2問 「歴史における旅とその役割」という主題について

問1 図とワークシート、旅程例に関する文あ・いの正誤の組合せとして正しいものを選択する問題。知識・技能を問う問題。18世紀の日本が欧米諸国と異なる経済・社会発展を遂げていたことに気付く、歴史総合の理念を反映した問題である。

問2 解説文中の空欄「ア」・「イ」に入る語句の組合せとして正しいものを選択する問題。知識・技能を問う問題。近代のメッカ巡礼を題材に、西洋中心に一方的に近代化が進んだという一面的な理解に対し、ローカルな伝統の継続という新しい気付きを得る意図が読み取れる。

問3 地図を参考にしつつ、イブラヒムが通過した順に正しく配列したものを選択する問題。知識・技能を問う問題。20世紀初頭に関する事実に知識と地図中の経路の丁寧な読み取りが求められる。

問4 ノート中の空欄「ウ」に入る語句あ・いと、ノート1のようにイギリスがダライ=ラマ13世

の要求を拒否する根拠となった資料X・Yとについて、最も適当なものの組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。イギリスやロシア、清などの帝国がチベットで対立する様子について、ダライ=ラマ 13 世の旅を通して描いている興味深い題材である。英露協定の知識に基づき正答を判断する問題であるが、選択肢の誤答が平易であるため選択肢に改善の余地がある。

問5 事例あ～えを比較した文として最も適当なものを選択する問題。訪問の時期や二国間の関係性を比較して共通点を考察する、思考力・判断力・表現力等を問う問題。

問6 表から読み取れることや、その背景に関して述べた文あ～えについて、正しいものの組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。移動の自由化というグローバル化の現代的な題材を扱っているが、高度経済成長期の日本の社会経済に関する事実的知識と資料の細かな読み取りの技能が求められる問題となっている点が惜まれる。例えば、あ・いの選択肢と組み合わせる形で、観光目的や商用目的での海外渡航者数が急増した要因について、う・えの選択肢に替えてドル=ショックを起点とする変動為替相場制への移行と産業構造の転換、技術の進歩（ジャンボジェット機の導入）といった側面から考察する問題とすることが考えられる。

問7 ノート2から読み取れることや、その背景について述べた文として、最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問8 メモ1・2の正誤について述べた文として、最も適当なものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。大問のまとめの問題として各班の事例を最後にまとめる過程は、歴史総合が求める諸事象の比較や関連付けを通じた概念的理解に通じる。

3 分量・程度

本試験と同様、大問数は2問構成で、設問数は計16問であった。分量は試験時間に見合った適切なものであり、難易度も大学入学希望者の学力を測定するものとしては、適切であったと考える。本試験や昨年度の追・再試験と同様に、歴史の用語や年号を詳細に覚えているかどうかよりも、歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察し、概念的に理解しているかどうかや、資料の読み取りの技能、資料から読み取った情報や既有知識を基に考察する力を評価しようという意図が読み取れた。これからも受験者の思考を促す問題の出題をお願いしたい。ただし、概念的理解や思考力・判断力・表現力等を問う問題においては、問題のテキスト量が増加しがちな傾向があるので、必要最小限のテキスト量での出題となるよう精査を引き続きお願いしたい。

まず、知識・技能の出題について工夫が見られた問題を2問挙げる。105は、資料の活用において工夫された問題であった。風刺画は立場性に着目して多面的・多角的に資料を読み解く技能が求められるため、資料活用の技能を評価する問題として適切である。111は、特に地図を用いる技能の評価において工夫が見られた問題であった。受験者は都市を特定した上でイブラヒムの経路の中に位置付けることで、近代化・革命・抵抗という時代の特徴を空間的に理解できる。ただ、正誤の判断にはやや細かい事実的知識が求められている。

次に、思考力・判断力・表現力等で工夫が見られた問題を2問挙げる。103は、資料とノートを丁寧に読み解き、なぜディアニューが法律を成立させたのかを論理的に推論することが求められる問題であった。受験者は、植民地の住民を宗主国に抑圧されるだけの受動的な存在とみる一面的な理解から、植民地側から主体的に権利拡大を求めて行動したという多角的な視点に気付く。歴史総合の大項目C「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の核心部分に迫る設問である。108は、「現代的な諸課題の形成と展望」における探究活動の過程をたどる設問であり、本委員会で求めていたことが反映されていた。今後とも、このような工夫された問題の出題をお願いしたい。

4 表現・形式

二つの大問を通して、主題を設定して問いを立て、資料を活用して、授業中のやりとりや探究活動を行うという歴史総合の授業の過程に沿って会話文や多様な資料を用いた問題が出題されており、かつ多様な形式での出題がみられた。昨年度に引き続き、ほとんどの資料が受験者にとって初見のものであったが、既有知識を基に会話文や資料を丁寧に読み解き、考察することで正解に至ることができる問題となっていた。このような出題形式とすることで、受験者や教員に対し、歴史総合が歴史の学び方を学ぶ科目であることを伝えるメッセージとなっている。また、昨年度の「歴史総合」追・再試験の問題との比較で考えると、資料については、文字資料の他に地図資料が二つ、統計資料が二つ、図像資料が二つとなっており、資料の多様性という観点では改善が見られた。

大問ごとのテーマが「人々にとっての様々な戦争経験」・「歴史における旅とその役割」となっており、「近代化」「国際社会の変化や大衆化」「グローバル化」の各項目で扱う、現代的な課題へとつながる歴史総合らしいテーマであった。

第1問では、Aで「軍隊と人々」に焦点をあて、欧米、日本、植民地、東アジアと多様な視点から主に近代の国民国家の形成に関わる政治的な側面からの問いを扱い、Bで「社会への影響」として人種・民族、女性や労働、正規軍以外の主体といった多角的・多層的な視点となっている。これにより、近代から現代にかけて二つの世界大戦に対し総力戦体制がとられ、社会のあらゆる側面に浸透していった歴史的变化を学ぶことができる。また、大問の最後の問題として、課題の設定と、それを解決するための資料の選択を問うものとなっており、大問全体を通して歴史総合が目指す探究の過程を体現しているといえる。第2問においては、博物館展示見学から班活動によるまとめや考察、班活動の比較という、生徒の深い学びが設定されている。今後も、共通テストを解答しながら学びのプロセスをたどるような出題を期待したい。

5 まとめ（総括的な評価）

2年目の出題となった「歴史総合」であるが、追・再試験においても、全体を通じて概念的理解や資料から必要な情報を読み取る技能に加え、事象の特徴を基に類型を考察させたりするような、思考力・判断力・表現力等を問う設問がバランス良く配置されており、歴史総合の科目の目標及び共通テストの問題作成方針を具現化できていたといえるのではないだろうか。歴史総合においては、歴史的文脈や時代性を通して理解することや、知識を基に資料を読み解くことで、既有知識を新しい角度から捉え直すことが求められるのだという、作題者からのメッセージが伝わってくる出題であった。我々授業者は作題者からのメッセージを十分理解し、授業実践を通して生徒に還元していかなければならないということを、強く感じさせられた。

歴史総合は、「近代化」、「国際秩序の変化や大衆化」といった時代の転換点を、日本と世界の相互関連の中で捉え直す科目である。「日本的」、「世界的」という固定観念に縛られることは、歴史総合に固有の多面的・多角的な見方・考え方を妨げる障壁となり得る。また、学習指導要領では中学校の歴史的分野からの学習の連続性も重要視されていることから、中学校からの知識の有効活用によって補完されている点も併せて確認しておく必要がある。

最後に、テーマの設定や資料の選択、出題形式や選択肢等、作題者の方々は大きな御苦勞をされたことと思う。様々な困難に直面しつつ、膨大なエネルギーを費やして、歴史総合たるにふさわしい問題を作成していただいた作問委員の方々に、心より感謝を申し上げたい。